

「ハレとケ」 通信

第
28
号

建設に携わることの幸せを、おすそわけ。

物語のある建築 (28)

「『私の生協』が社会を変える。」
コープかがわ 坂出共同購入センター新築工事」

平成 29 年 夏 発行

中津万象園にあるタイザンボク。肉厚な花びらはオキーフの絵にも似て、独特の存在感があります。

「『私の生協』が社会を変える。」

コープかがわ 坂出共同購入センター新築工事

数年前、青年会議所という団体に所属していた頃、協働をテーマに各所へヒヤリングをさせていただいたことがあります。その時に知ったのが、法人のCSRが今や当たり前であること、だからこそ、「社会のために何かしたい」という“想い”だけでなく、「どういった点をどう組み合わせることでどんな効果を生むのか、問題解決になるのか」という現実的な提案が求められる時代になっていることでした。おそらく、“想い”はあっても、それをどう形にすれば良いか悩んでいる皆さまも多いのではないのでしょうか。—今回の【物語のある建築】は、そんな悩みの解決へのヒントとなるかもしれません。



↑正面より見る

「自分たちの事業が大きくなればなるほど、利用者（お客さま）が増えれば増えるほど、社会は今よりももっと良くなっていく。」—そう胸を張って言えることは、経営者の誰もが願う夢ではないだろうか。経営者だけでなく、携わる社員も同じだろう。それを実現しているように思えるのが、『生活協同組合コープかがわ』の事業だ。

もちろん、今年で創立50年という長い歴史の中で、売上不振や、従業員のモチベーションの低下といった危機もあったという。しかし、『私の生協』と違って頂けるよう、組合員ひとりひとりを大切にします」という基本方針を掲げた現在の取り組みには、私たち通常の民間企業では想像も付かない、地域との結びつきがある。

そもそも『生活協同組合（生協）』とは何か。私にとっては、大学時代の『大学生生活協同組合』が馴染み深い、つまりは『共同購入』のための仕組みであると言って良いだろう。スーパーマーケットや一般の小売店は、「モノを売ることを通じて事業を行う」が、生協の場合は「ほしいモノをどうやって買うか」

が事業の根本となる。では、それはいつ誕生したのか。その歴史は、大きく3期に分けることができそうだ。

日本で最初に誕生した『生協』とは、戦後の物資の乏しい時代に、町内会や自治会単位で各地にできた共同購入のための集まりが、『消費生活協同組合法（昭和二十三年七月三十日法律第二百号）』によって制度化されたものだ。（第1期の生協）

現在の生協もその法律に則って事業を行っていることでは変わりがないが、戦後の窮乏期を脱し、「モノをいかに買うか」の選択肢が増え自由になったところで、その自治会単位の生協は役目を終え、現在では全て消滅している。

次に登場する第2期の生協は、高度成長期に労働組合より派生したもの。勤労者の福利厚生を目的とした組織のうち、消費生活をテーマとして誕生した。全労済、労住協、労金とも同じ源流を持つ。

消費生活をテーマにしているものの、労働組合由来の組織のため、運営陣は全て男性。家電製品（給与天引きのローンで、右肩上がりの成長期には絶好調の売れ行きだったそう）をはじめ、食品、酒…と扱う内容を変えていくが、

そもそも男性ばかりで消費生活をテーマに運営するのは無理があり、十年程度で全国の生協は事業の見直しを迫られることとなる。

香川県生協も例外ではなく、運営に行き詰まりを感じていたところ、当時の専務が未来を変える重要な出会いを経験する。それが、全国でも珍しい業態転換を成し遂げていた、名古屋勤労者生協との出会いであった。

今、全国では各都道府県に地域生協が存在しているが、いずれも【生活協同組合コープかがわ】と同じく、主婦を中心にした共同購入や店舗を事業の柱としている。

しかし意外なことに、この現在ある生協(第3期の生協)は、第1期、第2期の生協とは全く別の組織として新たに誕生したものであり、労働組合由来の第2期の生協の延長線上として設立されたものは少ない。前述した名古屋勤労者生協は、この数少ない“労働組合由来の生協が体制や方針を進化させて誕生した、主婦を中心にした共同購入を目的とした生協”であり、行き詰まりを感じていた香川県生協にとっては、これが変革のお手本となった。その出会いは、“雑誌で取り組みを見た”

こと。全く伝手はなかったものの、「これだ!」と思い連絡をした香川県生協に、名古屋勤労者生協は業態転換へのアドバイスをし、それが現在のコープかがわの基礎となった。

そして、当時は珍しかった成分無調整の牛乳を皮切りに、醬油、バター、ミカン缶……と“組合員のほしいもの”を購入するためのルートを一つ一つ増やしていき、自分たちで商品開発も行うようになっていく。だからこそそれらは組合員にとっては“顔の見える”品であり、自分たちの商品としての愛着も増していった。今でこそプライベートブランドや生産者の顔の見える仕組みづくりがお馴染みとなってきたが、「売る」ではなく「買う」から出発した生協にとっては、そこがスタートだったのだ。(現在、全国の生協オリジナルのアイテム数は5000程度。それでも一時期と比べれば減っているという)

さて、そんな第3期の生協として誕生した現在の生協であるが、コープかがわの場合、組合員数はおよそ19万人。うち5万人が配送を利用しており、今回私たちが建設を担当した建物は、その『配送』の仕組みを利用する組合員さんたちへ商品を届けるための配送センター(共同購入センター。拠点)として計画された。セツトセンター(香川県に1ヶ所)と隣接しており、その建設の目的は専ら配送距離の短縮による効率化かと思っていたが、実はそれだけではないと言う。

「コープかがわでは、今、大きい配送センターと小さい配送センターが3つずつあるのですが、大きい配送センターだと、年間の扱い高が25億円で、配送トラックは30台くらい。そして今回のような小さい配送センターだと、扱い高は10億円くらいで、そこで働く人の数もトラックもそれに比べて少なくなります。」

大きい配送センターの方が、業務の効率化が図れるのでは?と考えるのが常識ですが、『もしかして大きい配送



センターよりも、小さい配送センターを多く作った方が、却って効率が良いのでは?』と感じているんです。

理由は、小さいからこそ、センター長と職員の距離が近い関係を保てるからです。

配送センターの職員は、組合員さんと週に1回、決まった時間に直接お会いします。つまり、組合員さんのことが一番よく見えているのが、配送センターの職員。その組合員さんに最も近い存在の職員と、センター長との距離が開いてしまうようでは、『私の生協』と

理事長 木村誠氏



組合員さんに思ってもらうのは難しいんじゃないかと思えますし、組合員さんのニーズや要望も掴みにくい。小さい方が、職員同士のコンディションもよく見えます。

そんなことから、小さい配送センターがいくつも県内のあちこちにある方が良いのではないかと考えており、その方向を見据えた上での今回の新築でもありました。」木村理事長。以下、

「内のお話しは木村理事長。以下、

“配送センターの職員と組合員さんとは、週に1回、決まった時間に直接お会いする。”—実はこれこそが、コープかがわならではの地域との結びつきを生み出す基盤である。

今、各企業は、地域やお客さまとの絆をいかに強くしていくか、きめ細かに結びついていくかに懸命なように思える。それは業績対策のみならず、少子高齢化、人口減の社会の中で、企業

もまた社会の担い手であるという意識からの施策でもあるだろう。しかし、実際には企業と地域とが密接に信頼関係を築くということとは困難で、どこも苦慮している。というのが本音ではないだろうか。羨ましいことに、コープかがわには既にその土台がしっかりと築かれているのだ。

「コープかがわには、およそ19万人の組合員さんがいますが、そ

のうち『自分たちの生協』と
思って下さっている人が、数千人はいると考えています。生協の場合、組合員全員が株主となりますが、実際には『総代』を選んでいただくことで500人程度が代表として決める事に参加します。

その他に、地域での文化教室など交流を進める活動に参加している人が700人程。この700人は毎年半分ほどが入れ替わりますから、そう

いった方々の人数から考えると、常に数千人ほどは『自分たちの生協』と
思っている人がいるのではないかと
思うのです。」

総代の500人はともかく、地域を結ぶ役割を実際に担う人を700人集めるというのは通常の感覚では難しい。

そのことについて尋ねると、
「香川県にある100程度のコープ委員会を運営する、700人程の『コープ委員』を見つけてくるのも、主には配送センターの役割。週1回決まった時間に必ずお会いすれば、そこで信頼関係がで



坂出共同購入センター

きますし、お互いにどんな人かも分か
つてきます。その関係づくりから、担い
手さん候補が生まれます。

コープの配送を利用している組合員
さんのうち、4万人が『班』というグル
ープでの受け渡しを利用しており、1
万人が個別配送となつています。班の
数は1万以上あり、そこへ配送センタ
ーのスタッフが何うわけですが、新人ス



↑ ↓ 坂出共同購入センター



支出するのではなく、組合員ひとりひとりが自己判断し拠出している）、組合員の中に自然と寄附文化が浸透している。

現在、コープかがわで働く人は、メイトと呼ばれるパート社員が約七五〇名、フルと呼ばれる正社員が二六〇名ほど。このような豊かな組織文化が当たり前のものとして根付く貴重な法人として、これから何を目指して行くのだろうか。

「今、コープかがわでは、事業を通じて自然につながりが生まれています。食べもの、班、コープ委員会等を通じてそのつながりが広がっていく。それは、その人の暮らしにとつて、地域にとつて、必ずプラスとなるはずです。コープかがわの事業を通じて、暮らしと暮らしをつなぐ。そしてそれを通じて、暮らしを良くする。

『私の生協』と思って頂けるよう、組合員ひとりひとりを大切にします、という基本方針を掲げた現在の取り組みを通じて、それを実現して

いきたいと思っています。」
『自分たちの事業が大きくなればなるほど、利用者（お客さま）が増えれば増えるほど、社会は今よりももっと良くなっていく』。そんな経営者の夢を絵空事ではなく、堂々と実現しようとしている手本が、ここにはあった。

【おたがいさま高松】インタビューへ

おたがいさま高松 年月日 受付

登録番号

応援者登録カード

組合員カード 配達サービス 店番

ふりがな	電話	FAX
氏名	携帯	
生年月日 年 月 日 (男・女)	住所	
(登録する応援者が組合員本人でない場合)	緊急連絡先	
組合員名	氏名	電話

利用できる交通手段 1. 自動車 2. バイク 3. 自転車 4. 徒歩

【提供できるサービス】

1. お年寄りの身のまわりのお手伝い	18. 洗濯
2. お年寄りの話し相手	19. 掃除
3. お年寄り・病人の通院介助	20. 留守番
4. 病人・身障者のお世話	21. 農作業の手伝い
5. 病院との連絡（薬取り・順番待ち）	22. 簡単な修繕
6. 代筆・代読・音訳・宛名書き	23. 車のタイヤ
7. 市役所・役場などへの書類提出等	24. 家具等
8. 代理代行（荷物の受け取り・発送など）	25. 縫い物
9. 庭木の手入れ	26. 障子
10. 草刈り・草刈り	27. 散草
11. 植木・花壇・鉢花の水やり	28. ビ
12. 産前産後のお手伝い	29. 車
13. 子どものお世話	
14. 学習のお手伝い（ ）	30. 車
15. ペットの世話（散歩、餌やり等）	31. 車
16. 食事づくり	32. 車
17. 買い物（お店・共同購入の受け取り）	33. 車

【持っている特技・資格】

1. 保健士	2. 看護師	3. ヘルパー
4. マナーワーカー	5. 社会福祉士	6. 栄養士
7. 英語	8. 英語	9. 英語
10. 英語	11. 英語	12. 英語
13. 英語	14. 建築士	15. 英語
16. 英語	17. 英語	18. 英語
19. 英語	20. 英語	21. 英語
22. ボランティア		

【希望できる時間】

★希望できる時間帯（ ）

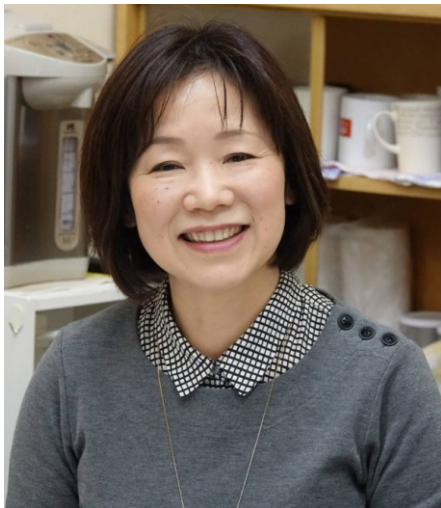
困った時は、おたがいさま
有償たすけあいシステム

おたがいさま高松

みんなが、かか
元気な毎日

スタッフが配属された場合には、逆に班の皆さまが、スタッフを育ててくださることも。コープかがわに根付く“組織文化”というのでしょうか、商品を囲んでみんなでおしゃべりしたり、助け合ったり…そういうところから生まれる関係を皆が大事にしてくれています。それが小中学校校区にひとつくらいずつあるコープ委員会の運営に活かされ、逆にコープ委員会の活動を通じてその組織文化がさらに広がって行く…という善の循環を生んでいます。」

そんな“組織文化”が背景にあること



【おたがいさま高松】について、お話をうかがってみました！

コープおたがいさま高松 代表 片山仁子氏

「【おたがいさま高松】、
というのは、いつ誕生
したのですか？」

「二〇一二年八月から
です。二〇一一年に、
組合員の皆さまにアン
ケートを採る機会があ
ったのです。そうしたら、
商品の安心・安全はも
ちろん、組合員の歳を
とった時の困りごとを解
決できる、頼れるコープ
であってほしいという要
望が多く寄せられまし
た。」

そんな時、ちょうど島根に「おたがい
さま」という活動があることを知って、
有志で視察に行ったんです。出雲市・
松江市、雲南市など、それぞれの地域

で、有償たすけあいのシステムで活発
に活動されていました。年会費もなく、
コープの組合員でなくても利用ができ
るという自由なスタイルでした。

それを参考に、『じゃあ、つくってみま
しょう』と。『もしつくるなら、事務所
はお店の中が良いわよね、そのほうが
利用しやすいんじゃない？』ということ
で、コープかがわに支援してもらって5
人のコープディネーターで始めたのが、
【おたがいさま高松】の始まりです。年
会費もなく、コープかがわの組合員で
もなく、地域の誰もが利用できるよう
にして、私たちが自分でお困りごとの
解決をするんじゃないかと、つなぐ役
割”として、できることからやりまし
う、というスタンスで活動を始めまし
た。

始めてみたら、登録している応援者
さんが一生懸命にやってくれるので、
『次もあの人にしてほしい』と言っても
らったり、口コミやメディアで広がって、
根付いていったという感じです。介護
保険でできないことをカバーする取り
組みとして、行政にリーフレットをもっ
ていったりもしました。

「【おたがいさま】の仕組みにつ
いて、教えてください。」

「事務所でコープディネーターが交代で
電話当番をして、利用相談を受けて、
その方のお困りごとに対応できる応援
者を、登録してくださっている方の中
から探します。」

まずは利用者の方のお困りごとに耳
を傾けて、共感しながらお話を聞くと
ころから始まります。応援者の車に利
用者を乗せて移動することだけはして
いませんが、それ以外のことは応援で
きる応援者がいれば依頼できます。
本当にお困りごとは人それぞれです
で、実に多様な応援事例が生まれてい

ます。

最初に応援者として登録してくださ
ったのが80人くらいで、今は250人くら
いでしょうか。二〇一二年当初は『月
に200時間くらいは応援したいね』と目
標にしていたのが、二〇一六年には月
平均1000時間を超える利用がありまし
た。

「応援者さんには、どんな方がなれ
るのでしょうか？」

「登録については、身の回りのお手伝い、
洗濯、留守番、庭木や鉢花の水やり、
ペットの世話：など、提供できるサー

コープ太田店の一角にある事務所



ビスを30以上例示して、細かく『自分にできること』を探せる仕組みになっています。クオリティについては、『プロじゃないからネ』ということを前提にしてはいますが、元氣な高齢者さんの活躍の場にもなればいいですね。実際に、83歳の認知症の方の話し相手を、78歳のかたがしていらつしゃるという例もあります。ちゃんと次に会う時に何をお話ししようかと、下準備もしてくださいっているんですよ。

女性でも、特技や好きなことはそれぞれ違いますよね。なので、できるだけ



けその能力や好きなことを活かせるようにコーディネートしますが、逆に『やつてみたら?』と一歩踏み出せるよう背中を押してあげたりもします。—なるほど。

「総代会で、組合員さんの声を紹介したりもするのですが、先日、定年退職後、応援者さんとして登録してくださった男性のかたから、『おたがいさまで活動している人の気配りや優しさを見て、この人たちと一緒にやれるなら、自分にもお手伝い活動が続けられる気がした。ボランティアというのは、相手に向ける想いこそが奉仕なのであって、仕事そのものではなく、その気持

ちにお礼をいただくんだな、と思えた』というお話をききました。

応援者さんには、本当に恵まれていますね。

—最近、そういった助け合いに、行政も乗り出してきていますね。

「高松市でも新しい総合事業として、コミュニティ単位で地域の助け合い事業が始まっています。その場合は、市から補助金が出ることで、本人負担が軽くなっているようですね。

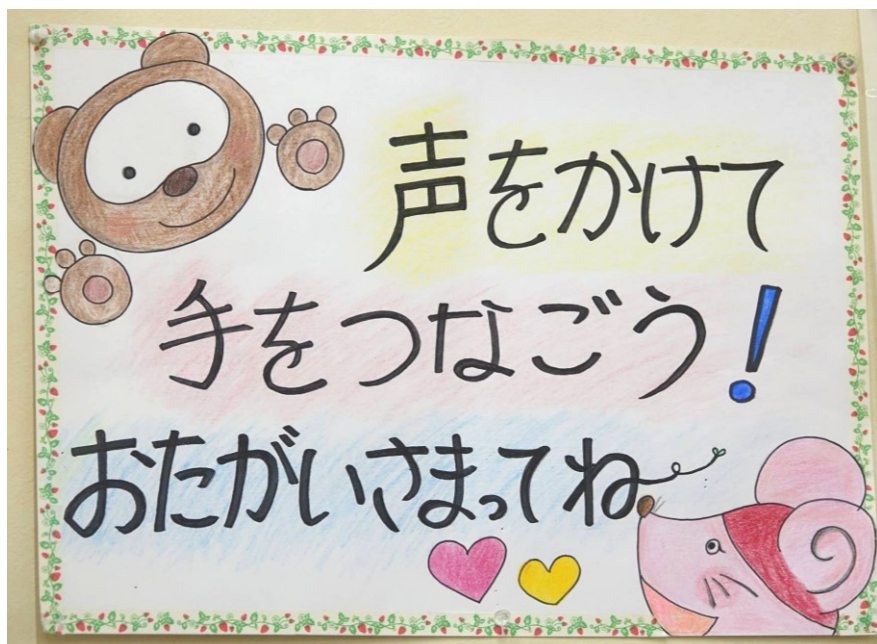
【おたがいさま高松】の場合は、利用者さんが直接応援者さんに利用料をお渡しします。そして、そこから、応援者さんが運営費を事務所へ納めてくださる仕組みです。

—月ごとにまとめて『業務受託費』として事務所から応援者さんに振り込まれるわけではないのですね。そういうところも、企業とは違う気がします。「言われるまで気が付きませんでした。そうですか?」(笑)中には『忘れちゃった』と運営費をもって

きてくださるのが遅くなる方もいらしたりしますが、問題なくやれていますよ!」

—応援者、利用者、コーディネーターのそれぞれが相手に対して、おたがいさま、と感謝する根っこがあるからこそなんでしょうね。ありがとうございました!

(おわり)



中津万象園を愛した京極のお殿さま、高朗公の漢詩集

「琴峰詩抄に親しむ（2）」

丸亀をこよなく愛した京極家六代目藩主 高朗公（号を琴峰と称する。1798-1874）の漢詩集【琴峰詩抄】より、詩をお届けいたします。

旅の途中で、また領内のあちこちで、詩の題材を発見して歩いた「琴峰さん」。
このお殿さまは漢詩を趣味とし、生涯に一万首にも及ぶ詩を詠んだといわれていますが、日々の喜びや出来事などを丁寧な筆で詠った詩の数々は、まるでお殿さまの体温が伝わってくるようで、知れば知るほどあたたかい気持ちになってきます。
その中から、まずは8回にわたって、お城から中津万象園へ至る道の情景を詠んだ漢詩をご紹介します。今回はその第2回目です。

鹽屋村路上（巻六）

棉圃禾田一逕通。
蹈車聲響渡頭風。
農家樂事君知否。
只在輕徭薄賦中。



原文／丸亀市資料館「琴峰詩抄」より抜粋
意訳／中津万象園 写真／うどん県旅ネット（ダウンロードサービス）

【編集後記】今年、富士建設は創業六十五周年。わたしが入社してからでも既に18年が経りましたから、もしかすると65年なんてあつという間かもしれませんが、やはり中々長い時間であるようにも思います。

先日、トレンドをテーマとする新聞を読んでいたら、『AIを活用して、洗濯物を自動で畳み、持ち主毎に収納してくれるマシン』185万円！すぐにもっと安くするのじゃないか？や、『合理性や効率性を重視する若者の間では「倍速」で映像等を再生するのが当たり前になっている』『スマートフォンのフリマアプリで簡単に不特定多数の人と売買ができるようになった今、子ども達にとつて周囲にあるものは全て「換金性があるもの」となった』など、様々な話題がありました。時代は変わったなあ……と思う一方で、数百年前の小説を読みながら、「人間の生活や世の中の仕組み」というのは、昔も今もさほど大きく変わっていないナ」と感じたことも思い出されます。しかし、おそらくは「IT」ほど人類の生活の仕組みを塗り替えてしまふモノの登場は過去になく、だからこそ、これから何が起きるのか、世の中がどう動いていくのかは、とにかくアンテナを張り続けるしかないでしょう。

その一方で、人の手を借りなければ、直接顔を合わせなければ実現できないことも未だに多く存在しています。ITで人との関係性が変わりつつあるからこそ、今の若者の持つ高い社会貢献意識にもみられるように、意識して人との距離や係わり方を組み立てて行かねばならない時代なのかもしれません。

ただ、今回のコープがわさんの取り組みは、「意識的につながり合うというよりも、なんだか自然に生まれ出たもののように思えました。そういう意味では、お手本と言うよりも憧れなのかもしれません。

*****御意見、御感想をお聞かせ下さい*****



建設業許可：香川県知事許可（特28）第189号
／一級建築士事務所：香川県知事登録 第416号
号／宅地建物取引業免許：香川県知事登録（10）第1997号

富士建設株式会社

本社：〒769-1101 三豊市詫間町詫間 300 番地 1
TEL0875-83-2588(0120-832589)

FAX0875-83-5864

http://www.fujikensetsu.jp

mail y-manabe@fujikensetsu.jp（真鍋有紀子）

【発行者紹介】富士建設株式会社は、現存する五重塔55基のうち2基を建立し、「建築は文化なり」を理念に掲げて、官公庁建物・各種施設等大型建築物をはじめ、数寄屋風住宅、デザイン住宅、リフォームまで幅広く施工している。

また、県下において1300区画超の宅地開発・分譲の実績を持ち、「街づくり」に対する貢献には定評がある。なお、丸亀市指定名勝である「中津万象園」の修復維持保全活動も行っている。

■営業所：高松営業所・丸亀本店・観音寺営業所
■中津万象園・丸亀美術館／丸亀プラザホテル／味処 懐風亭